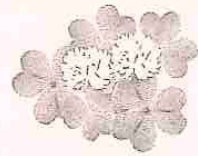


## ボランティアミーティングの報告



今から約 8 年前、えんに始めて見学に来たとき、一步入った時から何とも言えない空気に包まれました。それは一言で「温かい」と言うのとも違う、奥行きのある空気感でした。それから数ヶ月後に、私はえんの職員として働き始め、その空気を作っている大きな要因の一つがボランティアさんの存在であるとわかりました。

えんのボランティアは、人数はもちろんですが、その活動内容や、そしてお人柄まで実に豊かです。そして入職間もない私が驚いたのはその立ち位置でした。他の施設でのボランティアといえば、レクの時間の先生だけだったり、あくまでも職員の補助として洗濯たたみやお掃除のお手伝いというのが殆どではないでしょうか。しかし、えんのボランティアは職員と同じ場所に立ち、異なる視点から利用者さんと職員を見てくれています。その存在は、えんの中で、すっと立って見えました。それから日々を重ねてきましたが、ボランティアの方々にはいつも新鮮な感動と気づきをいただいています。

毎年恒例の「ボランティアミーティング」が昨年度も 2017 年 1 月 27 日に行なわれました。えんの前身「コスモスの家」の頃からの方から「昨日がデビューでした」という方まで 13 名のご参加をいただきました。

「レクに参加している全ての方と等しくコミュニケーションを取りたいが難しい」とおっしゃる方には小島代表から「同じ時間空間を共有することが大切」との言葉。みなさん大きく頷いておられた。「利用者さんの個人的な背景がわからないからその繋がりが良い」「あえて自分からは関わらない。一緒に調理をしていると色々話してくれて、職員への不満も聞いたり」「畑の作業で近所の犬の散歩の方とお馴染みになり柿を貰った」「職員さん、この頃疲れてない？」などの声のほか、「グループホームの入居者さんが食べこぼしで汚れた服のままレクに参加するのはどうなのか」と襟を正される指摘も頂きました。

最後に「他の施設での話だが、利用者さんに“私達はありがとうを言うのはもう飽きた、私達をあなた方の生きがいの道具にしないで”と言われたことがある。えんでは“ありがとう”を越えたところで繋がってほしい」とのKさんの発言が、えんのボランティアの姿勢を象徴しているように感じられました。

ボランティアのみなさま、いつもありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいいたします。

(グループホームえん／井上暁子)